

みんなの「声」

Vol. 13

町民の皆さまからの町への提言、思いなどを紹介します。
表紙（1ページ）に登場いただいた家族にお話を聞きました。

長崎地区在住の竹内さん家族 ※右上から
充（まこと）さん
亮心（いっしん）くん（7歳・長男）
理良（りら）さん
心遙（こほる）ちゃん（4歳・長女）

町全体で子育てを！

町の良いところは
都会過ぎず田舎過ぎずバランスが取れていて、住んでいる人たちも優しく暮らしやすいところです。

町に期待することは
町全体がみんなので子育てをする、そんな環境を作ってほしいです。

子どもたちに望むものは
友達みんなと仲良く、のびのびと育ってほしいです。

傍聴席からひとこと

戸田 清美さん

No. 55

令和2年第3回町議会定例会において、町総合計画、町財政、水産、観光、教育、社会福祉、防災災害対応、新型コロナウイルス関連等の一般質問を傍聴させていただき、改めて町の平成28年度から10年間を構想の期間として策定された計画・基本理念に目を通すことができました。

山田ICに近接する「新道の駅」構想についてオランダ島との相乗効果を図る質問に対する思案として「町に集客するなにかを！」

「時空を超えた絆」山田浦から始まるオランダ交流物語（著：木村悌郎先生）より
1643（寛永20）年6月7日、南部藩山田浦に入津したオランダ船ブレスケンス号事件、嵐に遭って僚船からはぐれてしまい、食料や水の補給を余儀なくされたブレスケ

ンス号を山田村の漁民はどう見たのだろうか。恐れることなく漁民たちは小舟で近づいて、飲料水や生鮮野菜を船に持ち込み、また、子どもたちも水くみ場を案内するなど、困っていることをわかり海に生きる同じ人間として見過ごさなかった山田の先人たちの素晴らしさと、その受容性の高さは山田の人ばかりではなく岩手の人たちにも誇れる事実だと思います。のちに船員たちは、親切にあしらってもらったので親切に接したと記されているそうです。
まだまだ掘り起こせば出てきそうな歴史秘話、逸話を話される「語り部」の役割が相乗効果をもたらし、次世代を担う子どもたちへと語り継がれていくことを願っています。

あともがき

▼町議会議員に選出していただいていた1年が過ぎました。初期の仕事に山田町学校給食センター竣工記念式典への出席がありました。
▼もうすぐ東日本大震災からの復興完遂、次は発展だと思っていた矢先、観測史上最大の時間雨量を記録した台風19号での被災、我々被災地住民にとっては泣きつ面に蜂でした。そして今度は新型コロナウイルスと課題、難問は山積しておりますが、町民の皆様、佐藤町長をはじめとした役場職員の皆様、同僚議員の皆様と力を合わせて乗り越えたいと思っております。▼私個人の政策、サラリーマン的に働く事が出来る農林漁業について今後も研究してまいります。（横田 龍寿）

発行責任者

議長 昆 暉 雄

◆議会広報編集特別委員会

委員長 菊 地 光 明
 副委員長 阿 部 吉 衛
 委員 阿 部 吉 衛
 〃 〃 〃

阿 部 幸 一
 横 田 龍 一
 豊 間 根 吉 信
 〃 〃 〃